

アメリカ移民の話 2

明治六年（一八七三）須恵町新原の原田家に生まれた喜三は、粕屋町酒殿の安河内家の養子になります。そして日露戦争後の明治三十九年（一九〇六）、アメリカに移住し、ついには「コシヨウ王」と呼ばれるほどの成功を収めます。

ところで、粕屋町の広報紙に連載された「かすや歴史探訪」第5話に、昭和三十六年（一九六一）、喜三が八十八歳で死去して間もなく、その功績に報いるため喜三宅に通じる道路が「キノ・レーン」と名づけられたと書かれていました。その地名

が地図に載せられることになったというのですから、行政上の公称を意味します。ダメで元々と、インターネットで調べてみました。検索したところ、すぐに判明したので驚きました。

図1はアメリカ合衆国、カリフォルニア州、サンディエゴ郡付近の地図です。矢印の先の●にサンマルコスとあります。

図2はその●部分を拡大したものです。確かに「Kiso Ln」と書かれています。「E Olive St」から入り込んだ路地の部分です。LnはLane

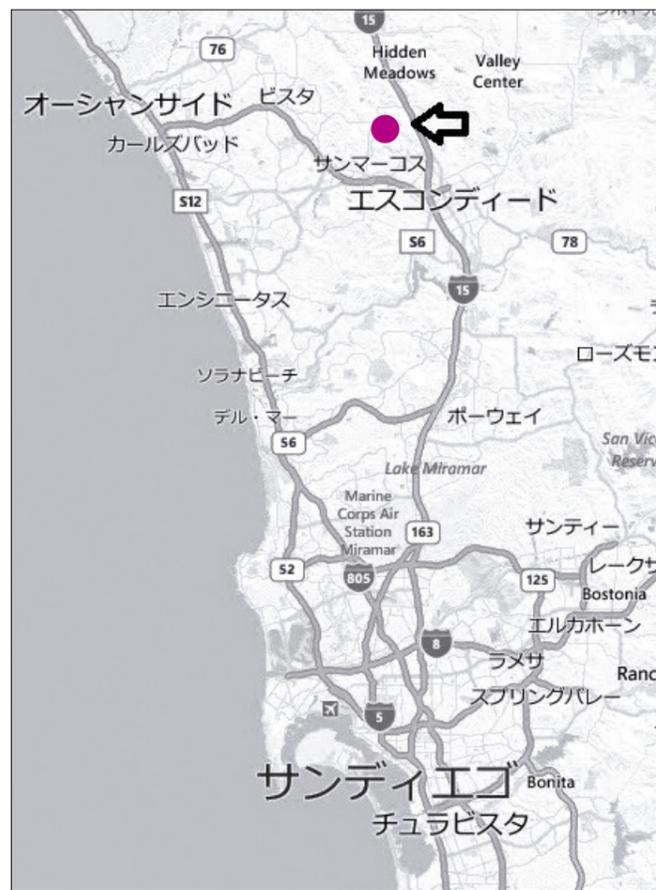


図1 サンディエゴ付近

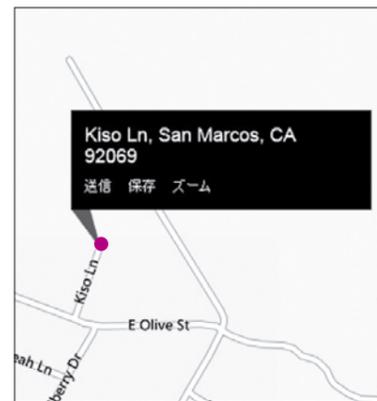


図2 Kiso Ln

の略、StはStreetの略で、どちらも「通り」ですが、Laneの方が

Streetよりも「小道」になります。

図3は同じ部分を空撮写真で見たものです。整然と並んだ畑の畝。その奥の一軒家に向かって、確かに「キノ・レーン」が延びています。その先に生前の喜三の住宅があったのでしょう。道路の奥の家にトラックが止められているのは作業場でしょう。さらに奥、木々に囲まれているのが住居です。今も子孫がそこに住んでいるのかどうかまでは判断でき

ません。

図1には「サンマルコス」と書かれています。[San Marcos]（聖マルコ）の意はウィキペディア（インターネット上の百科事典）では「サンマルコス」となっています。カリフォルニア州南部にあり、「City of San Marcos」つまりサンマルコス市です。カタカナ表記が異なるのは、英語（マルコス）とスペイン語（マルコス）の違いと思われます。

西海岸、太平洋に面したカリフォルニア州の面積は全米第3位、人口は第1位です。私たちになじみ深いロサンゼルスやサンフランシスコを含んでいます。映画産業で知られるハリウッドはロサンゼルスにあります。サンディエゴ郡の人口は二百八十一万。内、サンマルコス市が約八万四千

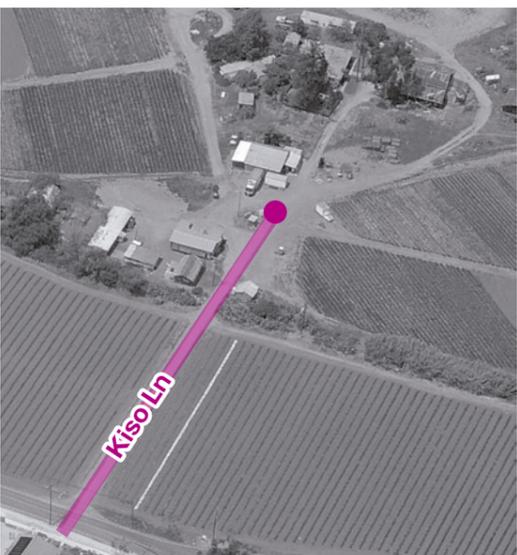


図3 Kiso Ln 部分の航空写真

安河内隆介（喜三の子）の『父と

子 日米に別れて生きた九十年』によると、サンマルコスが次のように描かれています。

「喜三が永住の地として熱愛したサンマルカスは素晴らしい景勝の地であった。平地を東北から標高三百、四百メートルの山並みが優しく抱いており、住宅くらいの巨石がごろごろし、その間には大樹がうっそうと茂っていた。サンディエゴ郊外の景勝地として近く山頂までケーブルカーが設置され、遊園地となるといわれていた。この平地の中に大樹を取り混ぜ林をつくり、池を掘り、生垣、竹林を配したなかに住宅が建てられていた」

喜三は居室に「在仙境自得」（仙境に在りて自得す、と読むのでしょうか）の額を掲げていました。図4は図3の風景を反対側から見たものです。日本庭園らしきものは見分けることができませんが、住宅が木々



図4 Kiso Ln 部分の航空写真 (図3の反対側から見る)

に囲まれていることは確認できます。あるいは喜三時代の建物がそのまま残っているのかもしれませんが。

図1〜4 いずれもマイクロソフトによる。図1・2は道路地図、図3・4は概観図（航空写真）。